竜胆

りんどう

2023年（令和5年）9月16日 発行
昭和薬科大学附属高等学校・中学校　PTA発行人　狩俣 一郎
〒901-2112 浦添市 沢岻450　☎ 098-870-1852

PTA会報
第172号

新しい出発！

～学びと成長の冒険がはじまる～

第38回 中学入学式

夢へのステップ、ここから

式辞

冨里 一公 校長

春の暖かな日差し中、校庭の花々が咲き誇る今日の佳き日に昭和薬科大学附属中学校の正門をくぐった二一五名の新入生の皆さん、入学おめでとう！我々、教職員一同と在校生は皆さんを心から歓迎いたします。

本校は、一九七四年に開校し、本年で五〇年の歴史を誇る沖縄県を代表する進学校であり、七九〇〇名余の卒業生の中には、県内外の各界各分野はもとより国際社会で活躍する人材も数多く輩出しております。新入生の皆さんには、本校の歴史と伝統を胸に今日からこの学び舎で頑張っていただくことを心から期待しております。

新入生の皆さんは、今日、この場所にたどり着くために幼いころから特に勉学面において大変な努力を積み重ねてきたことだろうと思います。私は皆さんのこれまでの努力とチャレンジ精神に心からの敬意と称賛を送りたいと思います。

保護者の皆様、本日は子どもたちのご入学誠におめでとうございます。保護者の皆様にとっても、今日の我が子の晴れの姿にこれまでの道のりを思い起こしか感慨もひとしおのことだとお察し申し上げます。

皆さまの大切な子どもたちを我々教職員が今日から六年間、お預かりします。私が今、保護者の皆様を前にお誓いすることは、今日ここに集った二一五名の新入生が六年後、この学び舎を巣立つ時、それぞれの目標を確実に達成し、沖縄、いや日本の将来を担う有為な人材となるよう教職員一同、全身全霊を傾けて子どもたちのために専念する所存であるということであります。どうか本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

今日晴れて、本校に入学した新入生の皆さんに私から送りたい言葉があります。それは二〇一八年にノーベル生理学・医学賞を受賞した本庶佑先生の時代を変えるための六つの「C」という言葉です。六つの「C」とは、好奇心(Curiosity)勇気(Courage)挑戦(Challenge)確信(Confidence)集中(Concentration)継続(Continuation)を大切にしなさいという言葉です。つまり、「好奇心を大切に、勇気をもって、困難問題に挑戦し、全精力を集中して、諦めずに継続することで、必ずできるという確信が生まれ、時代を変革するような研究を世界に発信することができる」ということです。

新入生の皆さんには、ぜひ六年間の本校在学中、この六つの「C」を常に心に思い浮かべ実践していただき、今日ここに集った仲間たちともに新しい時代を築く人材になっていただくことを心から期待します。

結びに、本日の入学式を挙行するに当たりまして、ご臨席いただきました学校法人昭和薬科大学理事長、元木和幸様をはじめ関係各位の皆様に厚く御礼を申し上げて式辞といたします。

祝辞

元木 和幸 理事長

本日、ここに多数の保護者、ご来賓の皆様をお迎えして、昭和薬科大学附属中学校の入学式を挙行するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

新入生の皆さん、見事、難関を突破されてのご入学おめでとう。

また、ご臨席の保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。皆様のお喜びもひとしおかと、心よりお祝い申し上げます。

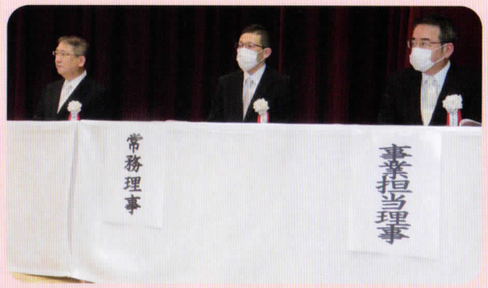
今日のこの入学式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する行動制限が段階的になくなってきたことを踏まえ、四年ぶりにご家族の皆様をお招きし開催することを決定しました。

その中で皆さんを本校に迎えることは、本校関係者にとりましても皆様と同様にこの上ない喜びでございます。この記念すべき出会いを機に、本校の歴史について簡単にご紹介したいと思います。

本校の設立母体は校名にある通り、東京都町田市にある「学校法人昭和薬科大学」で、本校は同大学の唯一の附属校であります。

太平洋戦争で多大な戦禍被った沖縄県の復興に際し、県民の方々の大きな希望をかなえるべく、「教育を通じて人材を育成する。」との建学の精神のもと、昭和四十九年(一九七四年)、理科系教育に主眼をおいた高等学校として、一学年わずか六十名の体制からスタートしました。

創立当初の本校は、小規模な学校であるがゆえに、経営面では幾多の困難に遭遇しました。しかしながら生徒諸君の向学心と、保護者の皆様のご協力、そして教職員の献身的な指導を原動力に、進学実績を積み重ね、県内随一の進学校としての評価を不動のものとしました。昭和六十一年(一九八六年)に、進学校として更なる飛躍を図るべく附属中学校を併設、中高一貫教育を導入し、平成二十八年(二〇一六年)には、老朽化した校舎をおきなわの自然と調和した新校舎に改築しました。



また、本日、入学式を行っているこの体育館は、一昨年三月に建て替え工事が完了し、大きく、設備も充実したものになりました。

わずか、六十名の生徒から始まった学び舎も、今では約千三百名の生徒擁する、沖縄県を代表するリーディングスクールへと成長し、本校の卒業生が県内はもとより、全国の第一線でご活躍されています。

本校の進学校としての成功が、後に県内の公立・私立進学校の開校を促したことで、それまで進学のためには子供を県外に出さざるを得なかった保護者の精神的、経済的な負担を軽減することができました。

なお、本校は今年、二〇二三年に創立五十周年を迎えます。

さて、新入生の皆さんは本日、このような歴史を持つ昭和薬科大学付属高等学校・中学校のせいとして、それぞれの目標に向かうスタートラインに立ちました。

皆さんは今、新たな学校生活への期待と不安の交錯した感動の時を迎えてることと思います。これからの学校生活は長い人生の中でも、知識の基礎を蓄え、感性に磨きをかける大切な時期でもあります。そのため、勉学は勿論のこと、クラブ活動を通じて多くの友人を作ること、そして生涯の恩師にめぐり合うことも大切な事です。

この六年間で大いに学び、大いに遊び、大いに悩み、青春を謳歌してください。

そして、これからの中学・高校生活で様々な経験を積み、六年後には青い東シナ海を望むこの学び舎から、国内はもとより、世界に向けて羽ばたいって行って欲しいと思います。

最後に新しいスタートラインに立たれた皆さんの学校生活が充実した日々でありますよう祈念し、お祝いの言葉と致します。

PTA会長あいさつ

知念 武史 PTA会長

新入生の皆さん、そして保護者の皆様、本日はご入学誠におめでとうございます。

PTAを代表いたしましてお祝いのご挨拶を申し上げます。

新入生の皆さん、薬科生の一員になった実感が湧いてきましたか？

ご家族の皆さんの温かい声援を受けて厳しい受験勉強を頑張ってきましたね。

薬科に入学するという目標を達成した皆さん、これから薬科での6年間をどう過ごしていきますか？

薬科には素晴らしい先生方、先輩方、仲間達がいます。そして充実した学校環境や多くの部活動があります。勉強も部活も一生懸命な生徒が多く、お互いにいい刺激を受けながら充実した学校生活を送っています。

新入生の皆さん、「学ぶは真似る」という言葉を聞いたことはありますか？「学ぶ」と「真似る」の語源は同じと言われています。日本の武道や芸事では、先生や師匠から基本の「型」を教えてもらい、その「型」を「真似る」ことから「学び」は始まります。

世界的に有名な大企業「Apple」を創業し、MacやiPhoneを生み出したスティーブ・ジョブズの言葉にこういったものがあります。「人類が成し遂げてきた最高のものに触れ、それを自分の課題に取り込む。ピカソも『優れた芸術家はまねる、偉大な芸術家は盗む』と述べているように、我々は偉大なアイデアをどん欲に盗んできました」ジョブズは、世界に衝撃を与える最高の製品を創り出すために、どん欲に「真似る」ことを続けたリーダーでした。誰かが作った原理・原則を真似ていくことが学びとなり、その学びにより先人を乗り越えて社会を発展させていくことができるのです。誰かが苦労して作り上げた考えを「パクって」飛び越えていくことができるのです。「学びはお得」なのです。ぜひ「学びの物まね上手」になってみてください。

保護者の皆さん、子供は成長していきます。可愛いかった我が子が思春期になり、反抗期を迎えます。私にもその経験があります。その時にある先生から、「知念さん、失敗させてください」

「子離れの時です、自立させていきましょう」と言われ心が救われました。ぜひ失敗させてください。自立を意識していきましょう。親も子供と共に成長しましょう。また、ご家族で悩みを抱え込まず先生方やPTA、保護者の方々にも相談してみてください。

今年、息子の大学入試を経験しました。保護者目線でのお話です。大学入試共通テストでは情報処理能力や思考力が試されることが進んでいるようです、また推薦入試や総合型選抜など面接・小論文・共通テストを総合して合否を決めるなどの入試方法の多様化を見てきました。生き物の進化の過程において、「環境に順応できた者が生き残る」という言葉があるように、大学入試でも同様なことを感じています。

薬科のメリットは6年一貫のカリキュラムにより、高3の早い時期から国公立二次対策等に入れること、受験のサポート体制やノウハウがあることだと思います。そして、何より同じような目標を持つ仲間達がいます。切磋琢磨、支えあい、受験は団体戦とも言われますが、最後はそこなんだと思います。「己の青春に誠実であれ」と悩む息子の背中を押してくれた親身になって応援してくれる先生がいました。本当に素晴らしい学校だと思います。ぜひ三位一体となって目標に向けて頑張っていきましょう。

今年度は、PTA総会、PTA主催講演会、PTAソフトバレー大会、PTAバザー、草刈り作業などを予定しています。PTA活動にもご理解ご協力の程、よろし

2023 球技大会

6月22日(木)、中学生は本校体育館で、高校生は那覇市立体育館で、クラス対抗の球技大会を実施しました。

中学生は、男子、女子に分かれてドッヂボールとバスケットボール、そして、男女混成チームでバレーボールを実施しました。

中学生の総合優勝は、何と、1-D!!、おめでとうございます！

高校生も男子、女子に分かれてバレーボールとバスケットボール、そして、男女混成チームでバレーを実施しました。

高校生の総合優勝は、3-C!!、おめでとうございます!!

高校３年生にとっては、最後の球技大会となりましたね、残りの高校生活も一日一日大切に過ごして下さい。

高校球技大会

総合優勝 3-C

混成バレー 3-D
男子バスケ 3-C
男子バレー 2-D
女子バスケ 2-A
女子バレー 3-D

中学球技大会

総合優勝 1-D

学年優勝 1-D, 2-A, 3-D

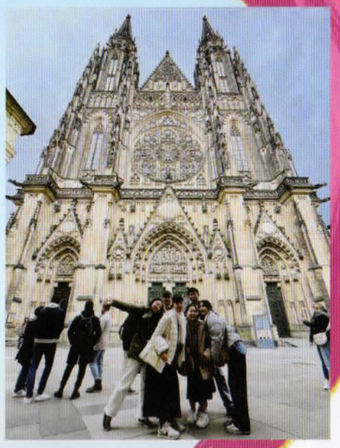
混成バレー 1-D, 2-C, 3-D
男子ドッヂ 1-D, 2-A, 3-D
男子バスケ 1-D, 2-B, 3-A
女子ドッヂ 1-A, 2-E, 3-D
女子バスケ 1-E, 2-C, 3-E

令和４年度　日本語弁論　最優秀賞
高野　琉海

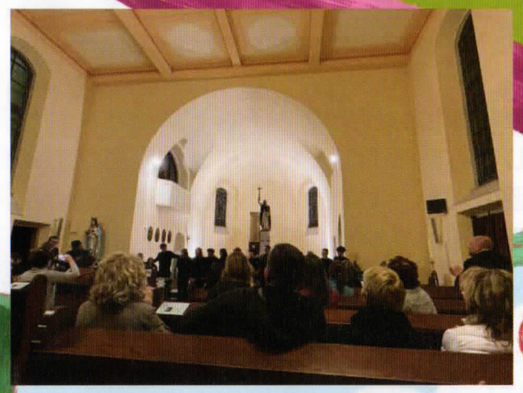
留学体験記

ダンスパーティーにて友達と。チェコの学生は決まった学年で3ヶ月間社交ダンスを習います。その集大成パーティーに2回招待してもらいました。

留学生活後半になるとたくさん旅行へ。友達とも、一人でも。これは日本人留学生とチェコ国内へ日帰りで遊びに行った時ですが、本当に最後の方では国境越えての日帰り一人旅もしました。



プラハ城内にあるゴシック様式の教会、聖ヴィート大聖堂。JPN→HUNの派遣生がチェコに遊びに来ていたので、プラハを案内して回りました。



地域の小さな教会で行われた、ウクライナから避難してきた子供達による演奏会。2023年度(帰国後)の弁論大会ではこのイベントの話にも触れました。

留学団体の宿泊研修で。留学団体のプログラムに参加という形だったので、他の国から来ている留学生友達がたくさんできました。写真右はチリ出身学生、真ん中はチェコのボランティアさん、左はタイ出身学生です。

ただいま！ということで帰国して高校三年生に復学しました高野琉海です。弁論大会では名前は出しませんでしたが、中欧のチェコ共和国というところに10ヶ月間留学しました。私の留学は、留学団体(私はAFSという団体で行かせていただきました)を通して長期の高校留学、という形で現地の高校に通い、ホストファミリーと生活していました。

この一年で多くの経験をさせてもらいましたが、やはり高校生のうちに行くことのメリットは現地学生に交じる点だと思います。遠い国で近い年の　学生たちがどのように学んで、生活して、遊んでいるかというのは考えても分かることではありません。

もちろん辛いこともありました。特に最初の2ヶ月間は、毎日帰国したいと思い泣きながら外を歩いていました。それでも、チェコに行かなければ出会わなかった大切な人がたくさんいます。大切な思い出も、貴重な経験も数えきれません。辛い思いをしに留学に行ったわけでは決してありませんが、それを乗り越えることも自分の成長の糧であったと思います。総じて、私は長期留学に行って良かったと断言します。例え留年することになっても、受験が少し大変でも、それが些細なことだと思えるくらい、大きな1年間でした。多くの経験を積ませてもらい、多くの気づきを得ることができました。そのうちの一つを今年度の弁論大会でお話しさせていただきました。このように自分が成長して終わりではなく、誰かに共有する、伝えるということが私にできる小さなことです。もし留学に興味があったり、私の話が聞きたいという方は遠慮なくご連絡下さい。

チェコ共和国について: 北はポーランド、西はドイツ、南はオーストリア、東はスロヴァキアに隣接する内陸国です。保護者の皆様はチェコスロヴァキアという名前でご存知かもしれませんが、1993年にチェコとスロヴァキアは別の国として独立しました。第一次世界大戦後、共産体制下にありましたが1989年に民主化しました。当時のことを親世代は当たり前に覚えているので、ホストファザーやマザーからよく話を聞きました。中欧でなので隣国の文化や伝統が混ざる国です。そんな中目立つものはやはりビール。2位のドイツに圧倒的な差をつけて、チェコが一人当たりの年間消費量1位です。有名なピルスナーウルケルという銘柄はアサヒ飲料から買うことができるはずなので、保護者の皆様は是非お試しあれ。

令和４年度　英語弁論　最優秀賞
金城　夏月

Remove the invisible lid!

The Junior and Senior High School
Affiliated to Showa Pharmaceutical University
KINJO Natsuki

Have you ever heard of the flea circus theory?
It is based on the study of fleas used for circuses that gave up on jumping high. It is said that fleas can normally jump 150 times their body length. However, when they are trapped in a little jar and hit themselves against its lid again and again, eventually, they give up trying to reach higher than the jar even after they are released.
When I was volunteering as a tutor for a junior high school student, I was surprised at her attitude towards studying. No matter how gently I was teaching her, she would not even try. I pondered deeply about what was suppressing her motivation. Spending time with her, I recalled the flea circus theory which seemed to explain exactly her situation. I could tell she was underestimating herself, just like the fleas that kept an invisible lid on themselves and believed they could only jump the jar's height. In her case, the lid was her inferiority complex. I thought that changing the way she perceived herself was the first thing to do. From then on, I tried to increase her confidence by complimenting her through little conversations. For example, in math, even when she could not finish solving a problem, I always praised her for the process of solving it. By doing this, I could see that she became more positive about herself. Moreover, she began believing in her potential, making her more eager to study.
Thereafter, I wondered whether I was myself unconsciously keeping a lid on something, just like her and the fleas. For example, I tend to try to fit in with everyone else rather than express myself because I do not want people to think I am difficult to get along with. Moreover, I believe that even if I do express myself, people will not accept my way of thinking. Looking at this through the lens of the flea circus theory, I realized that peer pressure was the invisible lid that was holding me back. I was unknowingly setting my own limits because of the famous saying in Japan, "The nail that sticks out gets hammered down." This lid was preventing me from freely expressing my feelings or thoughts to people around me. I thought removing it just like the girl did would allow me to jump higher than before. However, I noticed that most Japanese people were under this same lid, and when we are all struggling from it together, it is hard for just one person to simply remove it. So, how can we remove our "invisible lid" together? It is simple. Think about the fleas again. What can you do to make them jump as high as before? You only need to bring an average flea that jumps normally into the flock. Then, the other fleas will realize that they can do this too. The same principle can work in this case. Even if I am about to be swept away by peer pressure, I can try breaking through and remind other people that they can express themselves as well and we can all jump together.
These limits that we set, which I call "invisible lids", are preventing us from spreading our wings and broadening our perspectives. Now, I want you to look back. "Are you not unconsciously keeping an invisible lid on yourself?" Maybe you can remove it since you are the one who is setting it. Try jumping so that other people can realize that they can jump too. And always remember there are endless possibilities beyond the "invisible lids" than you can now imagine.

2023年9月16日発行

ガクメシ（その①）

薬科PTA広報部による定期刊行会報「竜胆」

中3：中3B組バービー

親として気になるのは子どもの成績。初詣で合格祈願や学力向上の祈願をした親も多いのではないでしょうか。食育は子どもの教育にどのような影響を与えているのか?そこで今回は、弁当作り中で野菜にフォーカスして、これでもかと野菜弁当にしました。娘は😡

高2：恐竜

高１のときから、毎日欠かさずお弁当を作ってくれてありがとうございます。仕事も大変そうなのに、毎日朝ごはんや夕ご飯を作って、掃除も毎日やって、送迎もしてくれて、いつも感謝してます。これからは、お母さんが大変なときは、自分からすすんで家のこと、お手伝いするので、任せてください！

高2：初めての弁当

親として、初めての娘の弁当に、感無量です。改めて、家庭科の宿題がありがたいです。そうでもないとなかなか作ってくれないので。弁当を作り続けて、何年になるでしょう。 きっといつか終わりがくるのだと思うともうちょっとクオリティをあげなければと反省しております。

編集担当：奥浜正樹

決意表明

私は面白い人間である。そんな私のこれから一年の目標は、「もっと面白い人間になること」。これは決意と言ってもいい。とはいえお笑いを目指しているわけでも、ましてやクラスの笑い者にされているわけでもない。私がここで言う『面白さ』とは、経験と気づきによる自身の成長を指す。

経験とは。今私が壇上でこの景色を見ていることは、経験か。生徒会での一年や一週間無人島で過ごしたこと、講演会の企画運営などは経験か。きっと多くの人がうなずく。もちろんだ、私という人間を成長させている。しかし非日常だけが経験ではない。忘れてしまいがちだが、普段過ごしている日常も立派な経験だ。そして経験を積む中で、気づきが現れる。ただ気づきとは不思議なもので、自分の中にしかないが日常ではいくら探しても見つけられない。矛盾しているように感じられるだろうか。確かに何気ない毎日も経験だが、それは何年も繰り返してきたモノだ。高校生の私たちが新たな気づきを得るには、今いる場所から飛び出すことが、大きな鍵となる。

では、飛び出して得る気づきとはどういうものか。私には全国から集まる高校生と過ごした経験がある。そこで1人1人ショートスピーチをした。それぞれ違った日常を生きる彼らの話はそれはそれは興味深いものだった。そんな中でもよく覚えている男の子がいる。彼は髪を金に染め、耳にはピアスを、腰にはチェーンをぶら下げて、厚底の靴を履いていた。
そんな彼が真剣な顔をしてこう言った、
「僕は、世界中の人を笑顔にしたい」
はっ、とした。そこに私の気づきがあった。不良少年の様な見た目の子でも真剣さを持ち得るという気づきではない。私はまだそこで、はっ、としてしまうのだということに気付かされた。学校では人間の多様性について散々学んできた。周囲の人が全てではない。世界には様々な人がいる。見た目なんて関係ない。そんなことはとうの昔に知っている。だから私は、人を見た目で判断なんて、絶対にしていない、そう思っていた。しかし私はあの瞬間、あの見た目をした男の子が発した真剣な言葉を、意外だと感じた。だから、はっとしてしまった。無意識のうちに、見た目で判断していたのだ。私の周りで将来について、社会について、世界について真剣に考えるのは眼鏡をかけて、ペンだこがあって、寝る間も惜しんで化学や古文に数学。そんな古典的な、らしさ、を持った人ばかりだ。その形に捉われて、いつの間にか私の中で、髪を染めたりピアスを開けている高校生に遊び人のイメージがついていたのかもしれない。だが、彼と出会わなければ私がそれに気づくことはなかっただろう。ずっと沖縄にいたら、彼と出会うこともなかっただろう。自身の考えや常識、更に日頃は意識さえしないことでも、それが自分だけの普通であったことを知るのだ。外の世界によって崩された時初めて。

そしてこれは決して受身では終わらない。もし一歩踏み出せば、私にとって未知の世界が広がっている。知らないことだらけだ。私は多くの経験を積み、気づきを得るだろう。それと同時に、向こう側が知らないことを確かに私は知っている。今いる場所から飛び出してしまえば、私こそが未知の世界からの旅人となる。気づきのきっかけは、お互いに与え合っている。

経験を積み、気づきを得ると、今まで知らなかった自分が見えてくる。新たな視点を得ることもある。そうして人間性を深めた者を、私は「面白い」と感じる。さて、どうだろう。考えてみてほしい。果たして自分は十分面白いだろうか。いいや、まだまだ。私はまだ、この広い世界のほんの一部しか知らない。来月25日、東京を出発し、私の留学が始まる。もう一度ここで宣言しよう、私はこれからの1年で、もっと面白い人間になる。

Milí přátelé, děkuji vám a hezký víkend.

ガクメシ（その③）

薬科PTA広報部による定期刊行会報「竜胆」

教職員：沖縄大好き！

いつも妻の手作り弁当を持参しています。以前までは肉や魚、ご飯が詰めてりましたが、近頃は野菜中心。最近は発酵に興味があるようで塩麹（しおこうじ）など少ししょっぱいおかずが多くなっています。まずは健康第一！いつも感謝してます。ありがとうございます。

高３：芍薬

高校生活も残すところ数ヶ月、早起きとお弁当作りが得意でない母にとっては試練の日々でした。でも、帰宅後に感想を言ってくれたり、笑顔を見たりすると、明日のおかずは何にしようかなと考えているから不思議です。日々悔いなく、楽しんで高校生活を送ってもらいたいと願い、もう一品詰め込む朝です。

卒業生：ダイ

私が帰宅する車の音を聞くと、顔も合わさずに自分の部屋に行く長男。反抗期だから仕方ない。と思っても、会話が無くて少し寂しい。こんな父親でも人生について語りたいこともあるぞ！ある日曜日、たまたま2人で家にいたので、近くのラーメン屋に行かないかと誘ったら着いて来た。少し照れくさそうだが、学校生活について話してくれた。それ以来、月1回は2人でラーメンを食べに行く習慣となった。反抗期中でも美味しい食事には勝てないらしい。皆様、ご参考に。

編集担当：奥浜正樹

2023年9月16日発行

ガクメシ（その②）

薬科PTA広報部による定期刊行会報「竜胆」

高1：3匹のこぶたママ

愛情おやつ。175センチ体重50キロの息子は痩せ型が気になり沢山ご飯を食べる努力をしていますが、それでも中々体重が増えません。筋肉も付けてかっこいい身体を作りたいと言っていたのでボリューム満点のお弁当に手作りで作ったプロテインバーを添えました。

PTA：ダイ

太り気味なので、体重を落としたい私の最近のおかずは「鶏胸肉（鶏ハム）」！味付けを工夫してくれてありがとう😊

中3：ぷりん

父が、学校を休んだ時に作ってくれた焼きそば。普段はあまり料理をしていないように見える父だが、作ってくれた焼きそばは美味しかった。父とはよく口喧嘩もするが、感謝しなくてはならないことも沢山してもらってきたのであまり嫌ったりせず、喧嘩しないようにしたいと思う。

編集担当：奥浜正樹

竜胆を写真で撮ってみた。

写真提供：中３PTA 令和５年８月 奥飛騨にて

【竜胆１７２号】
発行日　　令和５年９月１６日
企画編集　昭和薬科大学附属高等学校・中学校（PTA 広報部）